横浜植物会
会報
第266号
Vol.55,No.3
事務局　〒244-0802
横浜市戸塚区平戸5-32-41　渡辺 重彦 方
Fax 045-825-2460　〒振替口座　00280-2-13074
E.mail:yoko.syoku1909@gmail.com
令和6年8月1日(2024)
横浜植物会ホームページ　http://yoko-syoku.sakura.ne.jp/（変更しました）

ヤマエンゴサクとキンキエンゴサク

会長　勝山輝男

キンキエンゴサク *Corydalis papilligera* Ohwi はヤマエンゴサク *C. lineariloba* Siebold et Zucc.に似たケシ科キケマン属の多年草で、埼玉県・新潟県以西の本州に分布が知られていた(福原, 2016)。2024年4月、神奈川県植物誌調査会総会の席上で、奥多摩や高尾山でもキンキエンゴサクが見つかったことが話題になった。ヤマエンゴサクとキンキエンゴサクの違いについては知識がなかったが、その席上で本多(2022)のコピーをいただいた。石川県内のヤマエンゴサクとキンキエンゴサクについて、葉、花、果実、種子の形態を比較したもので、きれいな写真を駆使して両者の識別ポイントが解説されている。この文献は石川県立自然史資料館のホームページ(https://www.n-muse-ishikawa.or.jp)からダウンロードすることができる。

キケマン属の花弁は4個あり、上下(外側)の2個が大きく、左右(内側)の2個は小さく、中に雄しべや雌しべを包んでいる。**上下の花弁の向軸面中央にある凹みの縁が青く縁どられていればヤマエンゴサク、白く縁どられていればキンキエンゴサクである。**花期の生植物や花の写真(できれば正面から見たアップ写真)があれば確実に識別ができる。花がきれいな植物なので、花期に写真を撮っていれば、1カットぐらいは上下の花弁の凹み部分が写っている。

植物誌調査会総会の後、会員のFさんから裏高尾で撮影されたキンキエンゴサクの花の写真を見せていただいた。私も裏高尾で撮影したヤマエンゴサクの写真を確認してみたが、上下の花弁の凹みの縁は青く、ヤマエンゴサクであった。裏高尾にはヤマエンゴサクとキンキエンゴサクの両方が分布しているようだ。神奈川県内にキンキエンゴサクはあるのだろうか？ 手持ちの写真を調べたが、県内で撮影した写真にキンキエンゴサクは含まれていなかった。

識別が可能な標本がないか、生命の星・地球博物館のヤマエンゴサクの標本を調べてみた。上下の花弁の凹みの縁の色は標本では判別できない。種子の表面が平滑であればヤマエンゴサク、小突起が密生していればキンキエンゴサクであるが、神奈川県産16シート、県外産38シートを調べてみたが、種子がついている標本は無かった。本多(2022)によると、キンキエンゴサクは小葉が楕円形で、花は長さ27～32 mmと大きく、ヤマエンゴサクは小葉の形は変化に富み、花はやや小さく、長さ20～25 mmである。県外標本に小葉が楕円形で花が大きいものが数点含まれていたが、種子がないので決定的な証拠にはならない。

県内産の標本では2017年に藤沢市川名で採集された標本が、花の長さ25～27 mmあり、楕円形の小葉をつけ、キンキエンゴサクの可能性がある。採集されたNaさんとNoさんに写真の有無を問い合わせたところ、やや不鮮明であるが、上下の花弁の凹みの縁が白く、キンキエンゴサクと思われる写真がメールで送られてきた。神奈川県にもキンキエンゴサクがある？ 来春には確認してみたいと思う。

ヤマエンゴサクの写真をお持ちの方、ヤマエンゴサクかキンキエンゴサクが確かめてみよう。思わぬ所からキンキエンゴサクが記録できるかもしれない。

文　献

本多郁夫, 2022. 石川県におけるキンキエンゴサクとヤマエンゴサク:同定のポイント. 石川県立自然史資料館研究報告(10): 1-8.

福原達人, 2016. ケシ科. 大橋他編, 改訂新版日本の野生植物2, pp.103-108.

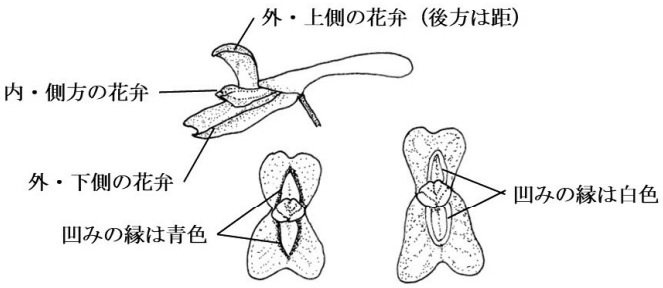

図. 上：ヤマエンゴサク花の構造、下左：ヤマエンゴサクの花正面、下右：キンキエンゴサクの花正面